

ふるさとの 其の47 誇り

1000年以上の歴史を持つ

高尾穂見神社



修復後の本殿



修復前の本殿

高尾穂見神社は、櫛形山の北東山腹、標高800m前後のところにあります。穂見神社の創立年代ははっきりしていませんが、1000年以上前の平安時代にまとめられた書物「延喜式」に穂見神社として名前が載っています。

祭神は保食神で、三昧王子を配祀しています。また、御崎大明神とも呼ばれ、古くから、五穀豊穡、養蚕成就、商売繁盛にご利益があるとして人々から厚く信仰されてきました。

現在の本殿は、棟札により寛文5(1665)年に建立されたことがわかったため、棟札とともに県の文化財に指定されています。

また、御正体と呼ばれるご神体は、銅で作られた鏡で、丸い鏡の面に神像が描かれ、八田御牧北鷹尾や天福元年

(1233)の銘があります。像に場所と年代が刻まれているものとしては国内最古級で、同じく県の文化財に指定されています。

本殿の屋根は、前回の葺き替えから50年以上がたち、劣化が著しく、正面軒の中央部より雨漏りが確認されたため、葺替工事を行うことになりました。

修理の内容

(1) 銅板屋根葺き

(2) 東側と西側軒先及び軒先野地板の修理

(3) 軒天、妻壁、破風板の修理

以上のような工事を行い、10月の終わりに工事は完成し、11月22日に落成式も行われ、23日にかけては「高尾の夜祭り」も開催されました。



参道から鳥居を望む



屋根の葺替工事の様子



建立当時の棟札

高尾の夜祭り
高尾の夜祭りは、この神社で行われる伝統行事です。

このお祭りの特徴は、五穀豊穡・商売繁盛の元手となる資本金を参拝者が神社から借りていく「資本金貸し」と、境内の神楽殿で舞われる「太神楽」です。

資本金貸しとは、信者が五穀豊穡・商売繁盛を願って、資本金の貸下げを請け、翌年の祭りの際に倍額を返済するもので、神徳が一年中身辺を潤して加護があるとされました。

太神楽は、市の無形民俗文化財に指定されており、天の岩戸などが演じられ、祭りの雰囲気盛り上げます。夕方から夜にかけては、巫女殿

で少女たちの「乙女の舞(豊穡の舞)」が舞われます。少女たちの優雅な舞は、見る者にすがすがしさを与えています。

緑の森に囲まれ、神々しい雰囲気にも包まれた高尾穂見神社。装いも新たな穂見神社にお参りをして、新しい年を迎えてみてはいかがでしょうか。



高尾夜祭りの太神楽